

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.102		蕨野(わらびの)の 棚田	生物地理区分	シイ・カシ萌芽林		
			地域区分	中山間地		
所在地	都道府県	佐賀県	地形 条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	唐津市		4.低地	5.その他	
	集落名称等	蕨野(わらびの)	環境 要素	1.二次林	2.草地	3.水田
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池
			7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林	
			10.その他			

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
都道府県立自然公園 保安林 森林法 唐津市景観まちづくり条例	「日本の棚田100選」 重要文化的景観 「日本の遊歩100選」 佐賀の美しい景観づくり地区
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
里山環境 ケヤキ・イロハモミジ・ヤブツバキ サラサヤマ・ブチサンショウウオ・ アオサギ・ミヤマホウジロ	観光パンフレット等に写真が使用されている、風景探勝や 撮影の来訪者が多い、自然公園や景観保全のための地域指 定がある、景観関連調査(文化的景観等)の対象地となっ ている



撮影時期：2008年3月
写真の説明：菜の花が咲く棚田景観



撮影時期：2007年6月
写真の説明：手間講隊の活動(田植え)

NO.102		蕨野(わらびの)の棚田		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	佐賀県			2.団体・企業・学校等
	市町村	唐津市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	蕨野(わらびの)			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称		蕨野集落(NPO法人「蕨野の棚田を守ろう会」)		
	その他の主体の名称		唐津市、手間講隊(佐賀大学援農ボランティア組織)		
目的: 主 :その他	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用				
	自然観察会				
	環境教育・学習活動		*	棚田での佐賀大学農業実習	
	里地里山体験・環境保全		*	棚田ウォーク大会、菜の花種まき、ハイキング	
	農林業体験活動		*	市内外の小学生を対象に棚田を使った農業体験を行っている	
	エコツアー				
	その他				
	5.地域の良好な景観の保全・修復				
	取組内容		蕨野の棚田は、重要文化的景観に選定されているため、保存・修復については『保存管理計画書』で規定するルールの遵守が求められている(石積みでの修復、ただし旧来の空石積みではなく練り石積み)。また、同所は『唐津市景観計画』の「重点地区」にも入れられ、開発行為等にも届出基準が設けられている。		
	6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承				
対象	生活行事	*	9月の彼岸の中日に、集落の鎮守社に浮立を奉納している。		
	資源利用技術				
	その他	*	地区には石垣棟梁と称される石工が存在する。		
取組内容		蕨野の棚田は、平均高3~5m、高いところでは8.5mもある石積みによる棚田であり、こうした高石垣を築くために蕨野地区には、代々伝統的な石積み技術を継承する石垣棟梁が存在し、棚田の修復等を行っている。			
連携・協働による取組内容・役割分担等		<ul style="list-style-type: none"> ・H21年2月「蕨野の棚田を守ろう会」発足。重要文化的景観として広報や棚田を利用した各種イベントへの協力、農地に関する相談、事業導入等支援をNPO団体と市が協力して行っている。 ・佐賀大学主体の「手間講隊」による援農活動も行われている。2003年より佐賀大学農学部と地域交流協定を締結。棚田保全を目指し、棚田内に点在する耕作放棄地を対象に復田や無農薬栽培、さらに新しい作物の栽培実験などを行っている。 			
取組の特徴や強調したい点		<ul style="list-style-type: none"> ・この蕨野地区には、江戸時代より「手間講」と称する住民の紐帯を深め、水田や石積み棚田の造成を集落民総出の共同作業で行う、一種の村落共同体的な「講」が綿々と現在に至るまで存在しており、こうした「手間講」があったからこそ、石積み棚田を現在まで存続させることができたといえる。 ・「手間講」精神の延長として、地区では積極的に都市部との農村交流が行われており、地域活性化イベントを組織的に行う実行委員会も地区内に立ち上げられ、棚田を使ったウォーキングや交流会、さらには農業体験等を行っている。 			

取組の概要	伝統的な「講」に加え、交流による棚田保全支援の仕組み整備	課題グループ 景観文化 仕組 手法
事例の特性	中間組織を通じた地元住民の取組促進(中山間地)	
取組の中で他の地域の参考となる点	石積み棚田を現在まで存続させてきた「手間講」の精神の延長として、都市部との交流を推進。重要文化的景観としての広報や棚田を利用した各種イベントへの協力、農地に関する相談、事業の導入等を支援する会も発足している。	